

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル宇都宮（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの種類が豊富で、児童の発育や特性に応じたプログラムを提供することができている。。	児童一人ひとりの発育や特性に合わせて活動内容を柔軟に変更できるよう、複数の活動プログラムを事前に準備・作成している。	今後も活動プログラムの充実を図り、より一層、児童の状況やニーズに応じたプログラム内容となるよう工夫を重ねていく。
2	児童が成功体験を積み重ねることができる活動を重視し、その経験を通して自己肯定感の向上につなげている。	活動の準備段階から児童と一緒に取り組むことで達成感を得られる機会を増やし、成功体験を積み重ねられるよう支援している。	今後も児童の自己肯定感の向上を意識した支援を継続し、児童が主体的かつ積極的に活動へ参加できるよう支援を行っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者対応において、担当職員によってフィードバックの内容に差が生じ、保護者への説明や課題提示が十分でない場合がある。	職員の知識や経験の差、ならびに社内事例の共有が十分に行われていないことが主な要因であると考えられる。	事業所内研修の実施回数を増やすとともに、社内事例を活用したロールプレイ等を行い、職員全体の対応力の向上を図っていく。
2	保護者同士が交流する機会が少ない。	就労されている保護者も多く、交流の場を設定することが難しい状況があるため。	交流会の開催時期や時間帯の工夫を行い、より多くの保護者が参加しやすい形となるよう改善を進めていく。
3	支援内容や児童の成長の過程について、すべての保護者に十分に伝えきれていない場合がある。	日々の支援は行っているものの、情報提供が口頭中心となる場合があり、保護者によって理解の程度に差が生じることがある。	面談や連絡ツール、配布資料等を活用し、支援の目的や児童の成長の様子をより分かりやすく伝える工夫を行っていく。